

令和元年度(平成31年度) 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)				前年度の成果と課題				本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
<p>「ユニバーサルデザイン(UD)」を基本理念とし、「科学・共生・感動」のコンセプトを具現すべく教育活動を展開し、生涯を通じて不断に学び考え、多様な人々と協力しながら、主体性を持ってより良い社会作りへ貢献できる人材の育成を目指す。そのために、以下のことを推進する。</p> <p>(1) 学習における基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広い学力を育む活動を推進する。</p> <p>(2) 基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。</p> <p>(3) すべての教育活動の実践をとおして、南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。</p>				<p>大地震・大型台風など連続しての天災に襲われ、本校の南北両キャンパス校舎も被害を受けるなど多難な一年であったが、幸い教職員の協力により教育活動を大過なく継続することができた。また、本校の特色である八幡支援学校との交流及び共同学習についても、南北両キャンパスでインクルーシブ教育を推進し、両校のスクールパートナーシップを深めることができた。</p> <p>しかし、今後の更なる充実・発展のためには、生徒アンケートにもあったように「学校全体に学習する雰囲気欠けている」という状況の改善が喫緊の課題である。ICT環境の整備を進めるとともに、全教員が積極的に授業改善に努め、個別指導と全体指導の高立を目指すことで基礎学力を定着させ、自ら課題を解決する力を醸成することが望まれる。それが中学生から選ばれる魅力ある学校づくりにつながるであろう。</p>				<p>南北両キャンパスの一体感を基盤として、あらゆる教育活動をおとして、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。</p> <p>(1) 普通科と2つの専門学科における、それぞれの教育内容の更なる充実・発展</p> <p>(2) 就修学保障及び進路保障に向けた指導改善の研究・研修の充実</p> <p>(3) 安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実</p> <p>(4) 学習システムのUD化と授業を大切にす取組の充実</p> <p>(5) 保護者・地域連携による基本的な生活習慣及び社会的自立心の育成</p> <p>(6) 学校行事、部活動、ボランティア活動等の充実による学校の活性化</p> <p>(7) 八幡支援学校との協働を含め、インクルーシブ教育の推進・研究</p>			
分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価	成果と課題
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたかとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どのような状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間 年度末	
組織運営	組織運営	教育力の向上	学校の教育力を一層向上させる。	教職員の研修機会を増やし、資質向上に努める。	研修受講数	3	センター研修の積極的な受講を促し、受講する機会を増やす。 授業見学の充実	受講数 授業見学に参加する教員数	前年度比増 延べ100人以上	3 3	センター研修については、今年度初任者、中堅教諭等資質向上研修の対象教員が前年より減少している。一般研修、他が主催する研修についても増加している。また、授業見学についてはICTを活用した授業も数回実施され目標を達成した。
	組織運営	広報活動	積極的な広報活動に努め、中学生や保護者、府民の本校に対する理解を深め、志願者の増加をめざす。	報道機関による報道回数	前年度比増	3	報道機関等へ積極的な広報活動を行う。	報道回数	前年度比増	3 3	報道機関等への広報活動を積極的に行った。ホームページのリニューアルも成果があった。
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる	年度末アンケートでの「人がもつさまざまな個性のちがいを認めあえる」の項目に対する肯定率	90%	3	効果的なUD学習を実施する UD教育に関する記事を含む「UDつうしん」を発行する	担任の先生による肯定率 年間の発行回数	75%以上 7回以上	3 3	2,3学期のUD学習は、1年生は、障害者理解とデートDV、2年生は、沖縄平和学習と部落問題の歴史学習、3年生は、部落問題の結核差別と人権アンケートを行った。担任の先生方に対するアンケート結果は、実施内容及び実施方法の肯定率が87%であった。目標は達成できているが、より良いUD学習になるように、実施内容及び実施方法の検討をしていきたい。 「UDつうしん」においては、年間で8回発行でき、目標を達成できた。 年度末の3年生に対するUD学習のアンケートで「人がもつさまざまな個性のちがいを認めあえる」の項目に対する肯定率が89%であり、ほぼ目標を達成することができた。
	組織・運営	生徒募集	本校の魅力効果を効果的に発信し、志願者を増やす。	入試選抜における志願者数	募集定員を超える	2	学校ホームページの充実 学校説明会の開催 中学校及び塾訪問の実施	最新ニュースの発信やコンテンツ更新の年間回数 説明会の参加者が募集定員以上 年間訪問回数	100回以上 70% 2回以上	3 2 3	学校ホームページは、2月末時点で更新回数134回である。先生方の協力をいただき、目標を達成できている。 学校説明会の申込者数は、募集定員の70%の目標を達成できたのは、8月の専門学科説明会の108%、10月の専門学科説明会の82%の2回である。普通科説明会の申込者数は、10・11月では、61%であった。10月の普通科説明会は、残念ながら台風のため中止となった。 中学校及び塾の訪問回数は、目標の年間2回以上を実施することができた。 志願者数は、2月の前期選抜試験において普通科118人、人間科学科及び介護福祉科がともに20人であった。各学科の募集定員を満了することができなかった。来年度は、募集の改善を行い、志願者を増やしたい。
教務部	組織・運営	生徒異動	学習システムのUD化を進める	転退学者数	昨年度比減	3	調査前・学期末に成績不振者に対する基礎補充を実施する 追認対象生徒に対する補充を実施する HR出席簿への転記を呼びかける 欠課過多生徒の報告(連絡)の徹底を呼びかける	成績不振者数 追認認定率 欠課過多生徒数 欠課過多生徒数	昨年度比減 80%以上 昨年度比減 昨年度比減	2 2 2 2	両キャンパスともに成績不振者数はここ数年減少傾向にあるが、追認認定率は両キャンパスで80%を超えたものの、北キャンパスでは40%台にとどまっており、課題を残した。基礎補充や追認指導の見直し・充実を図るなど、引き続き、より細やかな指導に向けた体制整備に努めていきたい。
	組織・運営	学力向上	学習指導の充実を図る	生徒満足度調査「Q8:学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%以上	2	読書活動の推進 読前学習会の実施	生徒一人あたりの貸し出し冊数 年間設定回数	昨年度比増 5回	2 3	授業での活用推進を図るとともに、図書に親しむ機会の工夫や新しい試みも実施するなど、昨年度以上に啓発活動に努めた。しかし、図書の貸し出し冊数は増加傾向には転じておらず、課題を残した。昨今のICTの情勢に鑑み、啓発活動の工夫・研究を図るなど、引き続き、図書に親しむ機会の推進に努めていきたい。
生徒指導部	生徒指導	生徒指導	学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせる環境をつくる。	生徒満足度調査「学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせますか」の肯定率	肯定率 75%以上 強い肯定率 35%以上	2	盗難がおこらない環境の整備及び啓発活動 交通安全等に関するHR指導(交通安全指導、担任への資料提供等) (北キャンパス)身だしなみ強化期間の設定 (南キャンパス)遅刻生徒に対する指導の強化	生徒満足度調査Q13の肯定率 実施回数 実施の回数 遅刻回数	肯定率80%以上 強い肯定率50%以上 12回 1回 昨年度より10%減	2 2 2 2 3	生徒満足度調査「学校への信頼・安心」は、70%(前年度65%)、「盗難が起らない環境整備」は74%(66%)と向上傾向にある。目標達成に向けさらなる取り組みを試みたい。
	生徒指導	部活動	生徒の主体性を育み、学校への帰属意識を高める	生徒満足度調査「本校には打ち込める部活動や体験活動などがありますか」の肯定率	肯定率 75%以上 強い肯定率 35%以上	2	部活動加入を促進口 生徒部通信等の発行によるアピール 部活動部長会の開催	12月時点での部活動加入率 発行回数 実施回数	40% 10回 3回	2 2 2	部活動紹介や各部による勧誘活動等熱心に取り組んできたが、入部率並びに継続率共に低下傾向にあり、各部の運営する困難となっている。様々な課題を整理し、本校における部活動の在り方の共通理解が求められる。
進路指導部	キャリア教育の充実と推進	組織的な進路指導と進路実現	各学年との連携を密に、正しい職業観、勤労観を身に付けさせるとともに、明確な進路目標を持たせることで進路実績の向上を図る。	学校満足度調査「就職・進学に関する情報の提供は十分だと思いますか」の肯定率	肯定率 80%	3	進路情報の提供 進路対策会議の実施 ホームページ記事の更新	生徒向け進路だよりの発行回数 教員向け進路だよりの発行回数 対策会議の実施回数 記事の更新回数	6回以上6回以上 2回以上 24回以上	3 3 3	肯定率は81%となり目標を達成することができた。今後も進学、就職に関する状況は変わっているため、その都度情報を提供し、生徒が自分で考え進路選択を行い、自らの成長につなげられるようにしたい。
保健部	保健管理	環境管理	環境美化への意識を高め、清掃活動を充実させる。	学校満足度アンケート質問17「教室や廊下、下駄箱等はきれいに清掃されていますか」の肯定率	65%	3	生徒会、安全美化委員会、保健委員会で、清掃活動への取組に関する呼びかけを行う。 「ほげんだより」で、環境美化についての呼びかけを行う。 エコキャップ運動に関する教室掲示を行う。	呼びかけの回数 掲載回数 掲示回数	3回 3回 2回	2 3 2	評価指標は、肯定率が南北あわせて65%なのでろうじて3の基準に達している。行事における委員会活動や生徒会による清掃活動への呼びかけ等、計画していた方策を行うことができた。しかしアンケートの肯定率は南北別にみるとかなり差があり、北キャンパスの清掃状況はまだ十分とはいえない。環境美化に対する生徒の意識をさらに高める方策を考える必要がある。南キャンパスは、各クラス安全美化委員がゴミ箱の分別チェックを定期的に実施したことで、1人ひとりが分別する意識を強化できた。
第1学年部	学習指導 生徒指導	学力の育成及び生活規律の確立	基礎学力の定着を図るとともに、基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を持った集団の育成に努める。	満足度アンケート「学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせますか」の肯定率	70%以上	2	定期考査前の勉強会の実施。特別に学習支援が必要な生徒へ学習機会の充実(特N会議による学習支援の活性化)、マナレの充実。 生徒の状況等を学年会で共有するとともに、保護者との連携を密にした個に応じた指導に努める。 基本的な生活規律を確立するため、教室の美化に努め、始業前、授業中、休憩時間、放課後等の校内巡視に努める。 空き教室の施設・開錠の徹底。	支援対象生徒の各種勉強会への出席の定着と課題への取組の徹底 ①情報交換回数②手立てを要する生徒との面談回数 巡回等の頻度	各種勉強会毎 2 毎日 毎日	3 2 3 3	重点目標「学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせますか」の肯定率70%以上に向け、きめ細やかな生活指導や授業秩序の確立、教室の美化など学校生活環境や学習環境の整備につとめたが、肯定率60%強と目標に届かなかった。目標突破に向けては、生活習慣の乱れからくる欠席過多生徒や基礎学力に不安を抱える生徒に対してのもう一歩踏み込んだ手立てやアプローチの必要性を感じる。
第2学年部	生徒指導 進路指導	生活規律の確立と進路意識の向上	安心した高校生活を通して、進路への希望を持たせ、進路希望未決定者を減少させる。	満足度アンケート「信頼・安心でできる学校生活」の肯定率及び学年末進路希望未決定者数	肯定率 75%以上 未決定者 20人以下	3	進路情報の提供と個別面談の実施 安心して学校生活を送れるよう生徒の状況等を学年会で共有する。 南北キャンパスの連携を密にする。	進路学習及び面談回数 情報交換と指導の方向性の共有 情報の共有頻度	学習3回面談5回 学年会毎 週1回	3 3 3	肯定率は73.7%で当初の目標にはとどかなかったが、生徒たちは充実した学校生活が送れていること、進路希望未決定者が数人と少なく、進路関係の満足度が80%超であることからほぼ目標が達成できたと考えている。
第3学年部	進路指導	進路保障	進路を決めて卒業させる。	年度末での進路決定者の割合	90%	3	進路意識向上のため、個別面談による進路指導をおこなう。 希望進路実現のため、学年部による面接指導をおこなう。 南北キャンパスの連携を密にする。	担任、学年部長、学科長による面談回数 面接受験生徒への面接指導回数 情報の共有頻度	3回 1回 週1回	3 3 2	3月9日現在の進路決定者の割合は、91%となっている。できる限りアルバイトではなく、進路を決めて卒業させる取組は一定の成果を上げたと考える。
事務部	施設・設備管理	生徒の事故防止	安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実を努める。	施設・設備に起因する生徒の事故件数	0件	3	各分掌、教科からの予算要望書提出時などの際に、施設設備の状況確認を行う。 教職員からの施設設備異常の報告を受けた際に、速やかに方策を検討する。 整備を必要とする事項を所管課に報告し、改善を依頼する。	予算要望ヒアリングの実施、予算配分通知の提示 改善の時期、改善完了の逐次報告 年間の報告・依頼回数	1回 報告毎 3回	3 3 2	以前からの懸案事項であった屋外トイレの改修経費についての予算配当を受け、北キャンパスについては卒業式までに改修を終えることができた。南キャンパスについても進めているところである。また、不良が見つかった北キャンパスのボイラー設備について、運転を休止するとともに暖房の代替措置をとった。
	組織・運営	事務処理	就修学保障、進路保障に係り、生徒、保護者に対し、就学支援に関する案内や事務処理を適切に行う。	就学支援制度について生徒、保護者への周知徹底	制度通知の都度	3	高等学校等修学支援事業、日本学生支援機構奨学金などの就学支援制度に係る事項について、生徒、保護者向け案内や手続きの進捗状況を事務部内及び学年部と共有する。 教職員(特に学年部)との連携を密に行う。	北・南キャンパス合同の事務部打ち合わせを実施口 部長会、職員会議で事務部発信の生徒、保護者向け配布物の周知	学期に1回 配布毎、会議毎	2 3	支援金や、奨学金についての保護者からの問い合わせにその都度丁寧に対応し、北南両キャンパスの進捗状況の共有も細やかに行ってきた。預り金の徴収等についても、学年部との連携を強化し円滑に進めることができた。
専門学科	魅力ある学科作り	学習指導	専門学科生としての学習意欲を高める	生徒満足度アンケート「学校全体(南)に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	70%以上	3	授業の開始時と終了時の礼と挨拶、授業の準備を徹底する 学科集会を実施し、各学年の連携を図る 八幡支援学校との協働機会について模索する	授業アンケート10Fは授業の準備をしっかりとっている 開催回数 検討件数	3.6 学期に1回 2件以上	2 3 3	授業に集中し積極的に取り組む姿勢は、授業アンケートの結果では昨年並みとなったが、3年生は大部分の項目において平均を上回った。学習面での生徒個人の取り組みに努力は伺えるが、学校全体としての学習意欲に物足りなさを感じる結果となった。学科集会だけでなく、ホームルーム活動など学年とさらに連携し学習意欲の喚起に努めていくことが必要である。

分野・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策		方策の評価指標		ターゲット	評価	成果と課題
							重点目標の達成状況	重点目標の達成状況					
							重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	重点目標の達成状況	重点目標の達成状況		中間	年度末	
							「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたか。				
国語科(北)	学習指導	学力の向上	意欲的・主体的に学習する習慣を作り、学力を向上させ、それを実感させる。	授業アンケートQ6、10、11、12の平均値	3.5	2	定期考査問題の狙いや評価について精査し共通認識を持つため、教科担当者全員で議論・検討する。 各単元につき1回以上の提出課題または発表課題を課し、内容について評価する。 家庭での学習習慣の定着を促し、計画的に小テストを行う。	実施回数 実施回数 実施率	定期考査毎に2回以上 単元に1回以上 80%	3 3 3	3 3 3	重点目標に関して、目標を達成することができなかったが、1学期と比較すると数値は上がっているため、今後も継続して指導を続けるとともに、より効率的な指導を目指して改善を続けていきたい。	
地歴・公民科(北)	授業	基礎学力の向上	日々の学習習慣の定着化を図り、基礎学力を向上させる。	授業アンケート項目Q6.8.9の平均値	3.4	2	授業開始時に授業に必要な物の確認を行う。 各考査ごとに、授業内容の振り返りを行う。 各学期ごとに他教科も含めて授業見学を行い意見交流を行う。	年間実施率 実施回数 実施回数	95% 5回 年2回	3 3 3	3 3 3	授業アンケートでは平均値が3.4を下回り、重点目標を十分に達成できなかったと言えなかった。来年度も、生徒の状況に応じた指導方法を各教科で話し合い、実施する努力を続けていく。	
数学科(北)	授業	授業規律の向上と授業への積極的な参加	規律ある授業を確立し、生徒達に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとっている」Q12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の平均値	3.3	3	服装等の身だしなみ、起立、礼を徹底する。 授業中にノートを取らせ、定期的に点検をし、加点の対象とする。 問題集やプリントを利用して演習をさせる	授業の取り組みの点検 点検の回数 問題集等利用の回数	週3回 学期2回 週1回	3 3 3	3 3 3	前回より授業アンケートの数値が上昇し、目標を達成することができた。今後とも粘り強く、生徒が積極的に学習活動に取り組めるように促していきたい。	
	研修	指導力向上	積極的に様々な研修に参加し、指導力を向上させる	授業アンケートQ3「先生の指示や説明はわかりやすい」、Q6「この授業で学力や技術が伸びたと感じる」の平均値	3.2	3	中学校や校内他教科の授業参観に参加して、自分の授業の指導に活かす 校外の各種研修に参加し、教科会議で報告することにより教科に還元する ICT活用による教科内研修の実施	公開授業等への参加回数 各種研修への参加回数 教科内研修の回数	年3回 年3回 年3回	3 3 3	3 3 3	評価指標である2つの項目について、いずれも基準値を超えることができた。次年度も教科内研修に励み、指導力向上に努めたい。	
理科(北)	授業	基礎学力の向上	授業に興味・関心を持たせ、自然現象に対する関心と理解を高める。	学期毎の成績不振者数	前年度比10%減	2	確認テストを行い、各生徒の学習状況とその定着度を確認する。 実物を手にとっての観察や実験を実施する。 授業・受け持ち生徒に関する報告・検討会を設ける。 校外研修等へ参加し、研究と修養に努める。	確認テストの作成回数 実験・観察の実施回数 報告・検討会の年間実施回数 研修参加回数(一人につき)	年間単位数×4回 各講座毎均24回 年間即回 平均3回	3 2 3 3	2 3 3 3	学期毎の不振者数を減少させることができなかった。確認テストの実施回数も目標回数には届かなかった。科目の特性に応じて実験・観察や視聴覚教材を用いて興味関心をひくことができた。校外研修や施設見学等も個々に行い、知識を共有し生徒に還元できるように工夫した。	
保健体育科(北)	授業	学習意欲の向上	自らの健康を管理し、改善できる資質や能力、態度の向上を図る。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.7	3	健康の保持増進につながる運動の大切さを理解させるとともに、休つき運動、持久走・ロードレースを必修とし、基礎体力の向上を目指す。 ベル着の徹底及び集団行動の充実・定着を図り、ルールやマナーを守りながら安全に留意して活動できる規範意識の向上を強化する。 個に応じた指導など授業内容を工夫し、意欲的・積極的に授業へ参加する意識の向上を養う。	サーキットトレーニング30秒MAX及び持久走・ロードレースの記録向上の割合 体育の2分前集合完了、保健の1分前の授業準備完了の割合 保健体育の両科目で成績不振・欠席過多による単位不認定者	60% 60% 40人以下	2 3 3	3 3 3	授業開始時までに集合し整列するよう声をかけ、ほとんどの生徒が意欲を持って授業に参加する様子が見られた。また、持久走やトレーニングの授業において、記録が伸びるなど、体力的向上が見られた。	
芸術科(北)	授業	授業に対する取組状況	授業規律を確保し、毎時間活動内容に真剣に取り組む姿勢を身につけさせる。	授業アンケートの項目7.8.10.11の値	3.5	2	教科担当者が授業開始ベルの前から待機し、ベル着を呼びかける。 忘れ物の確認、私語、居眠り、活動状況等について常に指導し、成績に反映させる。 課題に対して、より良い作品やより良い演奏に向けて努力するよう指導する。	開始ベルの前から授業準備や着席を促す声掛けの割合 授業規律確保のための声掛けの割合 各生徒の活動状況に応じた指導の割合	90% 90% 80%	3 3 2	3 3 2	設定した課題について全員が概ね達成出来るように個別対応・補充等を丁寧に行い、不認定者を目指して指導を継続した。一方で、最低限の課題達成で満足してしまう生徒も多く、本来の授業の活動時間の中でしっかり集中してより良いものを目指して取り組ませられるように指導改善する必要がある。	
英語科(北)	学習指導	授業	授業を大切にすることを意識を育て、基礎学力を向上させる。	授業アンケート全体の平均値	3.3	3	小テストや授業時間内の課題を実施し、さらに各項目ごとに「振り返り課題」を課す。 ノート、宿題等を提出させて点検を行い、取り組み状況を確認する。 表現活動や作業等をできる限り取り入れ、生徒が主体的に授業に参加する機会を設ける。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 各学期の実施回数	5回以上 2回以上 1回以上	2 3 3	3 3 3	重点目標については授業アンケートの結果が基準を上回り、達成されている。しかし1・2年生で学力伸長についての項目が数値がやや低めに出ており、今後は方策1・2を見直しも含めてさらに充実させていく必要がある。	
家庭科(北)	学習指導	学習意欲の向上	授業に興味関心を持たせ、取り組む姿勢を向上させる。	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている。」項目の平均値	3.3	3	課題の点検 体験的・実践的な授業の実施 ICT機器を活用した授業の実施	点検回数 実施割合 実施割合	年間6回以上 90% 90%	2 2 3	2 3 3	アンケート項目の平均値は3.3を上回り、体験的・実践的な授業も、各授業の特性に合わせて工夫実施している。ICT機器は積極的に活用しているが、生徒の学習意欲をより向上させられるように有効な活用方法を考えていきたい。	
情報科(北)	授業	授業に対する取り組み状況	前向きに授業に取り組む姿勢を身につけるとともに、情報機器に関する基礎技術の底上げをおこなう。	授業アンケートの「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の平均値	3.3	3	授業開始時にコンピュータのログイン、教科書等の授業準備が完了しているよう指導をおこなう。 忘れ物の確認をおこなう。 課題・授業プリントの提出を徹底する。	生徒自身の授業準備完了率 実施率 提出状況	100% 90% 90%	2 3 2	2 3 3	アンケートの目標基準には到達しなかったが、授業態度も落ち着き、ほとんどの生徒が積極的に授業に参加することができた。また、課題提出についても前向きに取り組むことができていた。	
商業科(北)	授業	授業の成果	ビジネスに関する知識や技術の修得と資格取得。	授業アンケート「学力や技術が伸びた」の回答の平均値	3.1	3	生徒が、主体的に研究する取組や生徒同士で対話する取組を入れる。 ビジネス社会で活躍するための技術を習得させる。 資格取得の有効性を説明し、受験者および合格者を増やす。	各授業での年間実施回数 各授業で3種類以上の技術を習得させる。 ビジネス系検定試験の受験者数	2回以上 3種類以上 28人以上	3 3 4	3 3 4	3年生の経営科学コース「ユニバーサルマネジメント」の授業においては、今年度「おにぎり」の商品開発において、地元福祉施設「JointJoy」様にお題いただき、審査と講評を行ってもらうことができた。実社会で活躍する人に来ていただき、講評していただくことができた。 2年生の経営科学コースやワープロ演習1の履修者に、資格取得に積極的な生徒達が例年より多く、今年度の資格取得にチャレンジした生徒の延べ数が55人となった。昨年度が35人であったため、1.6倍に増加した。今後も自分の夢を達成するための武器となる資格取得を推進したい。	
国語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	基本的な学習態度を身につけさせ、積極的に学習する雰囲気作りをすすめる。	授業評価アンケートQ7「クラス・講座全体が授業の準備をしっかりとっている」、Q8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の平均値	3.3以上	3	定期考査ごとに、ノートを回収し点検する。 1年生国語総合において、漢字の小テストを実施する。 授業開始時に、教科書・ノート等の準備ができているか確認する。	ノートの点検回数 小テストの実施回数 声かけの回数	定期考査毎 15回以上 毎回	3 3 3	3 3 3	小テストが形骸化しているため、再テストを実施し、やりなおしプリントを配るなど、取り組み方を変える工夫をした。来年度も継続していききたい。	
地歴・公民科(南)	授業	基礎学力の向上	学習習慣を身につけ、基礎学力を向上させる。	質問項目10、11の平均値	3.5	2	授業ノートの効率的な書き方指導および点検を行う。 小テストを実施し、基準点に到達するまで再テストをおこなう。	実施回数 実施回数	各学期1回 各単元1回	3 2	3 2	ノート指導は概ね実施できたが、小テストの実施回数が基準に達しなかった。生徒アンケートにおける質問項目10、11の平均が3.5を下回るクラスがあったため、今後は生徒が集中して授業に取り組むような工夫が必要である。	
数学科(南)	授業	基礎学力の向上	授業規律を確立する。生徒の学習意欲を高める工夫をし、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとっている。」の平均値	3.4	3	課題を課し、家庭学習の習慣と基礎学力を身につけさせる。 始業チャイムと同時に立礼をする。	実施割合 実施割合	70% 90%	3 3	3 3	重点目標の2学期の結果は、3.43であった。週末課題の提出については、多数の生徒が定着できていた。習熟度、少人数講座の編成について、次年度はさらに工夫したい。	
	検定・資格	検定受検・資格取得	数学検定を通して数学に対する興味・関心を引き出し、数学的な見方・考え方を身につけさせる。	数学検定の受験者数	5人	2	α講座に於いて、数学検定への受験を呼びかける。 数学検定に向けた補習を実施する。	授業内での呼びかけ 補習の実施回数	3回 2回	3 3	3 3	2月15日(土)に実施した数学検定の受験者は、北6名(内欠席2名)、南1名であった。南の受験者に対する補習は十分にできた。	
理科(南)	学習指導	基礎学力の向上	学習に取り組む姿勢を高め、学力の定着を図る。	定期考査毎の成績不振者数	前年度より減少	3	各生徒の学習状況を把握するため定期考査毎にノート点検。 小テストの実施により、生徒に復習の習慣を定着させる。 成績不振者に学習方法の指示を行い、状況に応じて補充を行う。	学習したノートの提出 小テストの実施回数 学期毎の成績不振者数	定期考査毎に提出 2週間に1回以上 前年度より減少	3 2 3	3 2 3	小テストは基準の回数を実施することはなかったが、成績不審者に対し状況に応じて補充を行ったり学習に取り組む姿勢を高め成績不審者数を減らすことが出来た。	
保健体育科(南)	授業	学習意欲の向上	授業開始時の意欲を高める。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとっている。」の平均値	3.8	3	体育/保健の授業開始時における生徒準備状況を評価する。 授業を欠席、見学した際に届けを期限内に提出させる。	5分前・3分前・1分前に集合整列、または活動の準備をしている生徒の点検頻度 欠課届け、見学届けを期日までに提出させる達成率	90% 60%	2 2	3 2	2 2	持久走の授業をきっかけに意識が前向きになり、行動が速やかになった。朝に遅く、集合の遅かった1・2年生の行動も早くなり、球技での授業前準備も日常化できるようになった。欠課届けについては、担任からの声かけにより、前期に比べると期限内に提出する生徒が増えた。
芸術科(南)	学習指導	生徒の授業への意識の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める	授業評価アンケート7.8.9の平均値	3	3	必要物を確認し、不要物への指導を行う。 意欲的に取り組む姿勢を高めるよう指導する。 私語・居眠り・活動状況等について常に指導し、授業規律を確保する。	確認割合 生徒の活動状況に応じた指導の割合 授業規律の確保のための声掛け割合	80% 80% 80%	3 3 3	3 3 3	3 3 3	2学期授業評価アンケートの7～9の平均は3.06であり、数値目標は達成できた。しかし、1学期と比べると0.3ポイントほど低下しており、2学期に入って生徒たちに出てきた気持ちのゆるみに対して有効に指導がし切れていなかった。
英語科(南)	学習指導	授業	授業を大切にすることを意識を育て、基礎学力を向上させる。	授業アンケートQ4、10、11の平均値	3.3	3	小テストを実施し、各項目ごとに課題を課す。 ノート、宿題等を提出させて点検を行い、取り組み状況を確認する。 インタビューテスト等の表現活動を行い、生徒が主体的に授業に参加する機会を設ける。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 各学期の実施回数	6回以上 2回 1回以上	3 3 3	3 3 3	3 3 3	中間発表以降も年度当初に設定した各目標を達成することができた。来年度も生徒の学習状況などに応じた目標を設定し、達成できるように努めたい。
家庭科(南)	学習指導	授業規律の確立	授業規律を確立し、授業に対して興味・関心・意欲を向上させる。	授業評価アンケート7.8.9の項目の平均値	3.1	2	準備物の徹底を図る。 授業中にノートを取らせ、定期的に点検を行い取組状況を確認する。	準備物持参人数 点検回数	95% 定期考査毎	3 3	3 3	3 3	2学期授業評価アンケートの7～9の平均は2.92であり、数値目標は達成できなかった。パワーポイントや視聴覚教材を使用することで興味・関心・意欲を向上させることに一定の効果はあったが、さらに改善していく必要がある。
情報科(南)	授業	基礎学力の向上	授業に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ7(授業の準備)、Q9(意欲的取り組み)の平均値	3.3	3	授業開始時にはコンピュータ起動ができているか点検する。 課題への取り組み状況や態度を点検する。	指導割合 指導割合	90% 90%	3 3	3 3	3 3	コンピュータを起動することが定着し、授業内容の関心が高まり授業に集中しやすい環境を作ることができた。
福祉科	学習指導	基礎学力および、専門的知識・技術の定着	学習環境を整え、専門科目における知識・技術の定着を図る。	授業アンケートQ7・8・9の教科全体の平均値	3.4	3	授業に集中できるように、授業規律を確立する。(姿勢を直し、私語を許さない) ICT機器を活用した授業を行い、授業のUD化の推進をはかる。	授業アンケートQ8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の教科全体平均値 すべての科目で年間実施回数	3.4 2回以上	2 3	2 3	2 3	中間評価を受け、2学期も集団を意識した指導を継続した。ひとり一人の姿勢、取り組みが集団になっても変わらぬよう、教科として次年度も授業改善に取り組む。